

廣田濱攝州の名をやら濱の磯の敷にはあらねどもめぐみひろ住吉濱同右うつせがひひ松真砂を
ふし 阪磨同上よめる 下立濱近江な 枝濱上總花

和泉國
高師濱

〔萬葉集一雜歌〕太上天皇幸于難波宮時歌

大伴乃高師能濱乃松之根乎枕宿杼家之所偲由

攝津國
住吉濱

〔伊勢物語下〕むかし男いづみの國へいきけり住吉の郡住吉のさと住吉のはまをゆくにいとお
もしろければおりみつ、ゆくある人住吉のはまよめといふ

雁なきて菊の花さく秋はあれどはるのうみべに住吉のはま

大物濱

〔吾妻鏡五〕文治元年十一月六日乙酉行家義經於大物濱乘船之刻疾風俄起而逆浪覆船之間慮外

止渡海之儀略○下

相模國
海綾濱

〔萬葉集十四東歌〕相聞
相模治乃余呂伎能波麻乃麻奈胡奈須兒良久可奈之久於毛波流留可毛

右十二首○十一相模國歌

七里濱

〔新編鎌倉志六〕七里濱

七里濱ハ、稻村崎ヨリ腰越マデノ間ヲ、七里濱ト云フ、關東道七里有以六町爲一里故ニ名ク古戰場ナリ、
今モ太刀刀ノ折、白骨ナド砂ニ雜テ有ト云フ、此濱ニ鐵砂アリ、黒キ事漆ノ如シ、極細ニシテイサ
サカモ餘ノ砂ヲ不交、日ニ映ズレバ輝テ銀ノ如シ、庖丁小刀等ヲミガクニ佳也、又花貝トテウツ
クシキ貝アリ、兒女拾テ作り花ニスル也、櫻貝トモ云、櫻色ナル故ナリ、

〔鎌倉大草紙〕此節○應永十七年新田殿の嫡孫謀反を起し、廻文を以て、便宜の軍兵をもよほされければ、

鎌倉の侍所千葉介兼胤が生捕にして、七里濱にて討之静めける

〔南方紀傳下〕應永二十六年五月廿八日、上州新田岩松治部大夫反、于時上州後被奔、上杉兵庫頭誅